

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期2Q	399,634,778株	27年3月期	399,634,778株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	41,859,934株	27年3月期	41,857,314株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期2Q	357,775,256株	27年3月期2Q	357,779,734株

(注) 当社は、平成27年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「発行済株式数（普通株式）」を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続きは終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きくかけ離れた結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および諸外国の経済情勢、市場における新製品・新サービスの開発・提供と需要動向、価格競争、他社との競争、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。業績予想の前提となる条件等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料および決算説明会内容の入手方法)

決算補足説明資料は決算短信に添付しています。当社は平成27年10月29日（木）に決算説明会を開催し、同日に決算説明資料を当社ホームページに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更	5
3. 要約四半期連結財務諸表	6
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	6
(2) 要約四半期連結包括利益計算書	8
(四半期連結累計期間)	8
(四半期連結会計期間)	10
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	12
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14
(5) 要約四半期連結財務諸表注記	16
(報告企業)	16
(作成の基礎)	16
(重要な会計上の見積りおよび見積りを伴う判断)	16
(セグメント情報)	17
(その他の金融負債)	20
(配当金)	21
(1株当たり利益)	22
(金融商品の公正価値)	23
(偶発事象)	26
(継続企業の前提に関する注記)	26
(親会社の所有者に帰属する持分の金額に著しい変動があった場合の注記)	26
(後発事象)	27
(参考) 要約四半期推移連結包括利益計算書	28
(参考) 補足説明資料	

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における経済環境を顧みますと、中国経済の減速と、それにとまなう世界的株安や資源国の落ち込みなどから世界経済の回復の勢いは鈍化しました。地域別に見ますと、米国では雇用拡大と労働需給の改善による賃金の伸びが消費を支え、緩やかな景気拡大が続きましたが、南米は資源価格と通貨の下落により景気が減速基調で推移しました。欧州においては、景気は緩やかに回復しているものの、ギリシャ債務や難民の問題、ロシア経済の不振など不透明感が拭えない状況となっています。アジアにおいては、中国経済が減速し、対中輸出の減少を受けたASEAN地域の経済成長も鈍化していますが、インドでは景気が持ち直しています。日本は、各種政策効果などもあり雇用・所得環境の改善傾向が続いたものの、輸出の弱含みや在庫調整などもあり、景気は総じて横ばい圏で推移しました。

このような状況の中、当社および当社の関係会社（以下「エプソン」といいます。）の主要市場につきましては、以下のとおりとなりました。

インクジェットプリンターの需要は、北米・欧州が前年同期並みに推移しました。大判インクジェットプリンターの需要は、北米・欧州・日本が堅調に推移しましたが、南米では景気減速の影響により低調でした。シリアルインパクトドットマトリクスプリンター（SIDM）の需要は、米州・欧州での縮小が継続しましたが、徴税市場での需要が続く中国は堅調でした。POSシステム関連製品の需要は、北米・欧州が安定的に推移しました。

プロジェクターの需要は、前年のサッカーワールドカップ特需の反動があり、また経済状況が不透明な欧州と南米では需要が低迷しましたが、北米およびアジアは堅調に推移しました。

電子デバイス製品の主要なアプリケーションの市場では、携帯電話の需要は従来型の減速が続いた一方、スマートフォンの需要は堅調に推移しました。デジタルカメラ市場の需要は低調でした。

精密機器製品に関連する市場では、ウォッチの需要は、日本がインバウンド需要の貢献もあり好調で、米州と欧州も堅調に推移しましたが、中国は高級嗜好品の低迷により低調でした。また、産業用ロボットの需要は、自動化要求の高まりを受けスマートフォンや自動車関連向けを中心に増加しました。

以上のような状況のもとで、エプソンは、2013年3月に「SE15後期 新中期経営計画」（以下「新中期計画」といいます。）を策定し、新中期計画の3カ年（2013年度～2015年度）においては、長期ビジョン「SE15」で掲げた戦略の基本的な方向性は堅持しつつ、「売上高成長を過度に追わず、着実に利益を生み出すマネジメントの推進」を基本方針とし、安定的な利益およびキャッシュの創出を最優先した経営を行っており、そのために、既存事業領域では商品構成の見直しとビジネスモデルの転換を図り、新規事業領域では積極的な市場開拓に取り組んでまいりました。新中期計画の最終年度となる今期においては、「売上高成長を過度に追わず、着実に利益を生み出すマネジメントの推進」を基本方針としつつ、新中期計画の進捗に伴う利益増を原資として中期的な成長のための投資と費用を戦略的に投下するなど、次期中期計画での更なる成長を見据えた経営を進めています。

当第2四半期連結累計期間の米ドルおよびユーロの平均為替レートはそれぞれ121.80円および135.07円と前年同期に比べ、米ドルでは18%の円安、ユーロでは3%の円高で推移しました。なお、南米などの一部の新興国通貨は円高で推移しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上収益は5,429億円（前年同期比5.9%増）、事業利益は402億円（同20.9%減）、営業利益は417億円（同46.9%減）、税引前四半期利益は401億円（同50.3%減）、四半期利益は261億円（同60.2%減）となりました。

なお、前年同期の営業利益には、確定給付企業年金制度改定にとまなう過去勤務費用減少の影響300億円の増益要因が含まれており、また前年同期の四半期利益には繰越欠損金の活用にとまなう税金費用の減少効果が含まれています。

報告セグメントごとの業績は、次のとおりです。

なお、「新中期計画」を総仕上げし2016年度以降を見据えた最適フォーメーションを構築すべく、2015年4月1日付で組織を変更したことにとまなない、第1四半期連結会計期間より、セグメント区分を変更しております。まず、従来の情報関連機器事業セグメントに含まれていたプリンティングシステム事業、従来の情報関連機器事業セグメントの中のビジュアルコミュニケーション事業に含まれていたラベルプリンター事業、従来のセンサー産業機器事業セグメントに含まれていた産業用インクジェット印刷機事業を統合し、「プリンティングソリューションズ事業セグメント」として開示しております。また、従来の情報関連機器事業セグメントに含まれていたビジュアルコミュニケーション事業からラベルプリンター事業を除き「ビジュアルコミュニケーション事業セグメント」として開示しております。さらに、従来のデバイス精密機器事業セグメントに含まれていた水晶デバイス・半導体・プレジジョンプロダクツの各事業、従来のセンサー産業機器事業セグメントに含まれていたセンシングシステム機器およ

び産業用ロボット・ICハンドラー事業を統合し、「ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメント」として開示しております。

■プリンティングソリューションズ事業セグメント

プリンター事業の売上収益は為替影響もあり増加となりました。製品別の内容は以下のとおりです。

インクジェットプリンターは、インクカートリッジモデルが数量減少となったものの、大容量インクタンクモデルが商品ラインアップ強化によりアジアを中心に引き続き大幅な売上の拡大を果たし、全体でも売上は増加しました。また消耗品も、プリンター本体の市場稼働台数の構成改善効果により売上増となりました。

ページプリンターは、高付加価値製品中心へ販売を絞り込んだことにより数量減少となった結果、売上は減少しました。

SIDMIは、米州で数量減少となりましたが、徴税市場で買替需要が顕在化した中国において堅調に推移し、また通帳プリンターが欧州と中国を中心に置き換え需要とシステムアップグレード需要により売上の拡大を果たし、全体でも売上は増加しました。

プロフェッショナルプリンティング事業の売上収益は為替影響もあり増加となりました。製品別の内容は以下のとおりです。

大判インクジェットプリンターは、南米で通貨下落と景気減速の影響から需要が低迷しましたが、大判写真・色校正（プルーフ）印刷市場向け製品が引き続き堅調で、インクジェット捺染市場はアパレルから小物グッズ、インテリア系まで応用領域が拡大し売上が増加しました。また消耗品も、インク消費需要が増え売上増となりました。

POSシステム関連製品は米州・日本での小型レシートプリンタの需要増を中心に売上が増加し、またオンデマンドでインハウス印刷を実現するラベルプリンターはカラーラベル用途のニーズが伸長し売上増となりました。

プリンティングソリューションズ事業セグメントのセグメント利益につきましては、インクカートリッジモデルの日本と北米市場における価格競争、ドル高による海外生産品の製造コスト増、中期的な成長のための投資と費用の戦略的な投下などにより減益となりました。

以上の結果、プリンティングソリューションズ事業セグメントの売上収益は3,566億円（前年同期比6.1%増）、セグメント利益は440億円（同20.3%減）となりました。

■ビジュアルコミュニケーション事業セグメント

ビジュアルコミュニケーション事業の売上収益は為替影響もあり増加となりました。液晶プロジェクターは、高性能製品を含めたラインアップの拡充が進み、北米・アジア・日本において販売を伸ばし売上増となりました。

ビジュアルコミュニケーション事業セグメントのセグメント利益につきましては、ドル高による海外生産品の製造コスト増、中期的な成長のための投資と費用の戦略的な投下などにより減益となりました。

以上の結果、ビジュアルコミュニケーション事業セグメントの売上収益は951億円（前年同期比9.5%増）、セグメント利益は88億円（同17.5%減）となりました。

■ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメント

ウェアラブル機器事業の売上収益は、ウオッチの高価格品の販売増加による平均販売単価の上昇効果および日本・米州・欧州での販売が堅調に推移したことや為替影響により増加となりました。

ロボティクスソリューションズ事業の売上収益は、産業用ロボットが前年同期に大型受注があった影響で売上減となりましたが、その影響を除くと中国・日本・欧州向けの受注増により売上増でした。ICハンドラーはスマートフォン向け半導体の成長鈍化と代理店在庫調整の影響で売上減となりました。

マイクロデバイス事業の売上収益は、為替影響があったものの減少となりました。水晶デバイスは、産業領域向けの販売が増加したものの携帯電話などのパーソナル機器向けの数量減と価格下落の進行により売上減となりました。半導体は、市況の悪化による顧客の在庫調整の影響で売上減となりました。

表面処理加工事業は新顧客開拓の進展により、また金属粉末事業はモバイル機器向け高性能材料粉末が好調で、売上増となりました。

ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメントのセグメント利益につきましては、表面処理加工事業と金属粉末事業の売上増、またマイクロデバイス事業の費用削減効果と現地通貨安による海外生産品の製造コスト減もあり増益となりました。

以上の結果、ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメントの売上収益は914億円（前年同期比1.8%増）、セグメント利益は89億円（同52.8%増）となりました。

■その他

その他の売上収益は6億円（前年同期比0.7%増）、セグメント損失は3億円（前年同期は1億円のセグメント損失）となりました。

■調整額

報告セグメントに帰属しない新規事業および基礎研究に関する研究開発費や本社機能に係る費用を中心とした販売費及び一般管理費の計上などにより、報告セグメントの利益の合計額との調整額が△213億円（前年同期の調整額は△207億円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に対して273億円減少し、9,788億円となりました。これは、主に棚卸資産の増加138億円、有形固定資産の増加64億円、投資不動産の増加38億円などがあった一方で、現金及び現金同等物が社債の償還および配当金の支払いもあり547億円減少したことによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に対して292億円減少し、4,797億円となりました。これは、主に社債の償還にもなう流動および非流動負債に含まれるその他の金融負債を272億円減少させたことによるものです。

なお、親会社の所有者に帰属する持分合計は、前連結会計年度末に対して19億円増加し4,962億円となりました。これは、主に利益剰余金が、配当金の支払い143億円があったものの四半期利益の計上260億円により89億円の増加となった一方で、円高進行にともなう対外営業活動体の換算差額の減少を含むその他の資本の構成要素の減少70億円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、通期連結業績予想につきまして修正いたしました。詳細につきましては、本日公表の業績予想の修正に関するお知らせをご覧ください。

なお、第3四半期以降の為替レートの前提は、1米ドル115.00円、1ユーロ125.00円としています。

以上により、2016年3月期の業績予想は以下のとおりとなります。

連結業績予想

(通期)

	(2015年3月期)	前回業績予想(A)	今回業績予想(B)	増減 (B)-(A)	
売上収益	10,863億円	11,300億円	11,000億円	△300億円	(△2.7%)
事業利益	1,012億円	1,020億円	820億円	△200億円	(△19.6%)
営業利益	1,313億円	1,000億円	910億円	△90億円	(△9.0%)
税引前利益	1,325億円	1,000億円	880億円	△120億円	(△12.0%)
当期利益	1,127億円	700億円	600億円	△100億円	(△14.3%)
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,125億円	700億円	600億円	△100億円	(△14.3%)
為替レート	1米ドル 109.93円	1米ドル 117.00円	1米ドル118.00円		
	1ユーロ 138.77円	1ユーロ 127.00円	1ユーロ130.00円		

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

エプソンの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、当第2四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積平均年次実効税率を基に算定しております。

3. 要約四半期連結財務諸表

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

	前連結会計年度 (2015年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2015年9月30日)
	百万円	百万円
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	245,330	190,596
売上債権及びその他の債権	167,482	167,243
棚卸資産	220,426	234,267
未収法人所得税	1,963	3,384
その他の金融資産	3,544	2,062
その他の流動資産	11,539	14,631
小計	650,287	612,186
売却目的で保有する非流動資産	96	628
流動資産合計	650,383	612,814
非流動資産		
有形固定資産	227,257	233,756
無形資産	19,170	19,331
投資不動産	4,758	8,570
持分法で会計処理されている投資	3,232	1,722
退職給付に係る資産	7	2
その他の金融資産	25,345	23,999
その他の非流動資産	5,958	5,502
繰延税金資産	70,168	73,199
非流動資産合計	355,898	366,085
資産合計	1,006,282	978,899

	前連結会計年度 (2015年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2015年9月30日)
	百万円	百万円
負債及び資本		
負債		
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	140,047	134,020
未払法人所得税	8,384	14,509
その他の金融負債	75,745	78,500
引当金	24,322	26,583
その他の流動負債	106,942	101,706
流動負債合計	355,442	355,320
非流動負債		
その他の金融負債	112,466	82,506
退職給付に係る負債	31,234	34,305
引当金	6,141	4,165
その他の非流動負債	2,977	2,545
繰延税金負債	711	871
非流動負債合計	153,531	124,394
負債合計	508,973	479,714
資本		
資本金	53,204	53,204
資本剰余金	84,321	84,321
自己株式	△20,464	△20,470
その他の資本の構成要素	83,073	76,053
利益剰余金	294,191	303,130
親会社の所有者に帰属する持分合計	494,325	496,239
非支配持分	2,982	2,946
資本合計	497,308	499,185
負債及び資本合計	1,006,282	978,899

(2) 要約四半期連結包括利益計算書
(四半期連結累計期間)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
	百万円	百万円
売上収益	512,807	542,981
売上原価	△325,292	△351,236
売上総利益	187,515	191,744
販売費及び一般管理費	△136,605	△151,500
その他の営業収益	32,751	4,700
その他の営業費用	△5,079	△3,234
営業利益	78,582	41,709
金融収益	2,930	892
金融費用	△1,000	△2,587
持分法による投資利益	106	90
税引前四半期利益	80,618	40,106
法人所得税費用	△14,682	△13,906
継続事業からの四半期利益	65,936	26,199
非継続事業からの四半期損失	△251	△33
四半期利益	65,684	26,166
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
確定給付制度の負債(資産)の純額の再測定	7,300	△2,792
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の 公正価値の純変動	1,300	△912
純損益に振り替えられることのない項目合計	8,601	△3,704
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	12,068	△5,516
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動 の有効部分	830	△625
持分法適用会社に対する持分相当額	117	△14
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	13,015	△6,156
税引後その他の包括利益合計	21,617	△9,860
四半期包括利益合計	87,302	16,305

	前第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
	百万円	百万円
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	65,587	26,027
非支配持分	97	138
四半期利益	65,684	26,166
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	87,038	16,230
非支配持分	264	75
四半期包括利益合計	87,302	16,305
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	183.32	72.75
継続事業に関する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	184.02	72.84
非継続事業に関する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期損失(円)	△0.70	△0.09

(四半期連結会計期間)

	前第2四半期連結会計期間 (自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日)
	百万円	百万円
売上収益	266,549	282,066
売上原価	△168,416	△179,773
売上総利益	98,133	102,293
販売費及び一般管理費	△70,733	△78,562
その他の営業収益	944	4,314
その他の営業費用	△4,382	△2,624
営業利益	23,962	25,421
金融収益	2,360	358
金融費用	△491	△1,746
持分法による投資利益	45	27
税引前四半期利益	25,876	24,060
法人所得税費用	△6,669	△8,445
継続事業からの四半期利益	19,206	15,614
非継続事業からの四半期損失	△118	△6
四半期利益	19,087	15,608
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
確定給付制度の負債(資産)の純額の再測定	3,478	△5,770
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の 公正価値の純変動	714	△3,310
純損益に振り替えられることのない項目合計	4,192	△9,081
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	16,457	△11,133
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動 の有効部分	71	1,066
持分法適用会社に対する持分相当額	130	△29
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	16,658	△10,096
税引後その他の包括利益合計	20,851	△19,177
四半期包括利益合計	39,938	△3,568

	前第2四半期連結会計期間 (自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日)
	百万円	百万円
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	18,995	15,498
非支配持分	92	110
四半期利益	19,087	15,608
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	39,642	△3,564
非支配持分	295	△4
四半期包括利益合計	39,938	△3,568
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	53.09	43.32
継続事業に関する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	53.42	43.34
非継続事業に関する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期損失(円)	△0.33	△0.02

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

親会社の所有者に帰属する持分

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素		
				確定給付制度の負債(資産)の純額の再測定	その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動	在外営業活動体の換算差額
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2014年4月1日 残高	53,204	84,321	△20,457	—	5,332	45,046
四半期利益	—	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	7,300	1,367	11,952
四半期包括利益合計	—	—	—	7,300	1,367	11,952
自己株式の取得	—	—	△3	—	—	—
配当金	—	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	△7,300	—	—
所有者との取引額等合計	—	—	△3	△7,300	—	—
2014年9月30日 残高	53,204	84,321	△20,461	—	6,699	56,999
2015年4月1日 残高	53,204	84,321	△20,464	—	7,149	74,868
四半期利益	—	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	△2,792	△902	△5,476
四半期包括利益合計	—	—	—	△2,792	△902	△5,476
自己株式の取得	—	—	△5	—	—	—
配当金	—	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	2,792	△14	—
所有者との取引額等合計	—	—	△5	2,792	△14	—
2015年9月30日 残高	53,204	84,321	△20,470	—	6,232	69,391

親会社の所有者に帰属する持分

	その他の資本の構成要素					資本合計
	キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動の有効部分	合計	利益剰余金	合計	非支配持分	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2014年4月1日 残高	△662	49,716	195,587	362,371	2,385	364,757
四半期利益	—	—	65,587	65,587	97	65,684
その他の包括利益	830	21,450	—	21,450	166	21,617
四半期包括利益合計	830	21,450	65,587	87,038	264	87,302
自己株式の取得	—	—	—	△3	—	△3
配当金	—	—	△6,618	△6,618	△95	△6,714
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	△7,300	7,300	—	—	—
所有者との取引額等合計	—	△7,300	681	△6,622	△95	△6,718
2014年9月30日 残高	168	63,867	261,856	442,786	2,554	445,341
2015年4月1日 残高	1,055	83,073	294,191	494,325	2,982	497,308
四半期利益	—	—	26,027	26,027	138	26,166
その他の包括利益	△625	△9,797	—	△9,797	△63	△9,860
四半期包括利益合計	△625	△9,797	26,027	16,230	75	16,305
自己株式の取得	—	—	—	△5	—	△5
配当金	—	—	△14,311	△14,311	△111	△14,422
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	2,777	△2,777	—	—	—
所有者との取引額等合計	—	2,777	△17,088	△14,316	△111	△14,427
2015年9月30日 残高	430	76,053	303,130	496,239	2,946	499,185

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー		
四半期利益	65,684	26,166
減価償却費及び償却費	21,865	23,471
減損損失及び減損損失戻入益 (△は益)	2,140	△3,007
金融収益及び金融費用 (△は益)	△1,929	1,694
持分法による投資損益 (△は益)	△106	△90
固定資産除売却損益 (△は益)	303	261
法人所得税費用	14,682	13,906
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,831	1,125
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△25,944	△15,289
仕入債務の増減額 (△は減少)	12,970	7,590
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△27,115	624
その他	△4,309	△16,737
小計	51,409	39,716
利息及び配当金の受取額	1,296	909
利息の支払額	△770	△633
訴訟関連損失の支払額	△191	△1,003
法人所得税の支払額	△12,500	△11,962
営業活動によるキャッシュ・フロー	39,243	27,026

	前第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
	百万円	百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の売却による収入	1	30
有形固定資産の取得による支出	△18,848	△33,635
有形固定資産の売却による収入	118	235
無形資産の取得による支出	△2,148	△3,261
無形資産の売却による収入	—	31
投資不動産の売却による収入	—	6
子会社の取得による支出	△639	△500
その他	△2,524	156
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,041	△36,937
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,106	12,575
長期借入金の返済による支出	—	△86
社債の発行による収入	10,000	—
社債の償還による支出	△20,000	△40,000
リース債務の返済による支出	△176	△47
配当金の支払額	△6,618	△14,311
非支配持分への配当金の支払額	△95	△111
自己株式の取得による支出	△3	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,000	△41,987
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	6,758	△2,836
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,959	△54,734
現金及び現金同等物の期首残高	211,510	245,330
現金及び現金同等物の四半期末残高	214,470	190,596

(5) 要約四半期連結財務諸表注記

(報告企業)

セイコーエプソン株式会社（以下「当社」という。）は日本国にある株式会社であります。当社の登記されている本店および主要な事業所の住所は、ホームページ (<http://www.epson.jp>) で開示しております。

当社および当社の関係会社（以下「エプソン」という。）の事業内容および主要な活動は、（セグメント情報）に記載しております。

(作成の基礎)

エプソンの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「特定会社」の要件をすべて満たすことから、同第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しております。

要約四半期連結財務諸表は、完全な年次連結財務諸表で要求される全ての情報が含まれていないため、2015年3月31日に終了した前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

(重要な会計上の見積りおよび見積りを伴う判断)

エプソンの要約四半期連結財務諸表は、収益および費用、資産および負債の測定ならびに四半期連結会計期間末日現在の偶発事象の開示等に関する経営者の見積りおよび仮定を含んでおります。これらの見積りおよび仮定は過去の実績および四半期連結会計期間末日において合理的であると考えられる様々な要因等を勘案した経営者の最善の判断に基づいております。しかし、その性質上、将来において、これらの見積りおよび仮定とは異なる結果となる可能性があります。

見積りおよび仮定は経営者により継続して見直されております。これらの見積りおよび仮定の見直しによる影響は、その見積りおよび仮定を見直した期間およびそれ以降の期間において認識しております。

見積りおよび仮定のうち、エプソンの要約四半期連結財務諸表で認識する金額に重要な影響を与える見積りおよび仮定は、原則として前連結会計年度と同様であります。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

エプソンの報告セグメントは、エプソンの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績の評価をするために、定期的に検討を行う対象となっている事業セグメントを基礎に決定されております。

当連結会計年度より、管理体制の見直しによりセグメントの区分方法を変更し、製品の種類、性質、販売市場等から総合的に区分されたセグメントから構成される「プリンティングソリューションズ事業」、「ビジュアルコミュニケーション事業」および「ウェアラブル・産業プロダクツ事業」の3つを報告セグメントとしております。

前連結会計年度の対応する四半期連結累計期間および四半期連結会計期間については変更後の区分方法により作成しております。

なお、報告セグメントに属する主要な製品およびサービスは次のとおりであります。

報告セグメント	主要商品等
プリンティングソリューションズ事業	インクジェットプリンター、シリアルインパクトドットマトリクスプリンター、ページプリンター、カラーイメージスキャナー、商業用インクジェットプリンター、産業用インクジェット印刷機、POSシステム関連製品、ラベルプリンターおよびこれらの消耗品、PC 等
ビジュアルコミュニケーション事業	液晶プロジェクター、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネル、スマートアイウェア 等
ウェアラブル・産業プロダクツ事業	ウオッチ、ウオッチムーブメント、センシングシステム機器、産業用ロボット、ICハンドラー、水晶振動子、水晶発振器、水晶センサー、CMOS LSI、金属粉末、表面処理加工 等

(2) セグメント収益および業績

エプソンの報告セグメントによる収益および業績は、以下のとおりであります。セグメント間の取引は概ね市場実勢価格に基づいております。

前第2四半期連結累計期間(自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注2)	調整額 (注3)	連結
	プリンティング ソリューション ズ事業	ビジュアルコミ ュニケーション 事業	ウェアラブル・ 産業プロダクツ 事業	計			
売上収益							
外部収益	335,895	86,782	86,994	509,672	331	2,803	512,807
セグメント間収益	174	90	2,848	3,112	290	△3,403	-
収益合計	336,069	86,873	89,842	512,785	621	△599	512,807
セグメント損益 (事業利益) (注1)	55,247	10,722	5,885	71,855	△196	△20,748	50,910
					その他の営業損益		27,672
					営業利益		78,582
					金融収益及び金融費用		1,929
					持分法による投資利益		106
					税引前四半期利益		80,618

(注1) セグメント損益(事業利益)は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

(注2) 「その他」の区分は、グループ向けサービスを手がける子会社等から構成されております。

(注3) セグメント損益(事業利益)の「調整額」△20,748百万円には、セグメント間取引消去78百万円、全社費用△20,826百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない新規事業および基礎研究に関する研究開発費および本社機能に係る費用であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注2)	調整額 (注3)	連結
	プリンティング ソリューション ズ事業	ビジュアルコミ ュニケーション 事業	ウェアラブル・ 産業プロダクツ 事業	計			
売上収益							
外部収益	356,490	95,132	88,172	539,796	294	2,890	542,981
セグメント間収益	167	35	3,287	3,490	330	△3,821	-
収益合計	356,657	95,168	91,460	543,286	625	△930	542,981
セグメント損益 (事業利益) (注1)	44,035	8,848	8,992	61,876	△321	△21,309	40,244
					その他の営業損益		1,465
					営業利益		41,709
					金融収益及び金融費用		△1,694
					持分法による投資利益		90
					税引前四半期利益		40,106

(注1) セグメント損益(事業利益)は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

(注2) 「その他」の区分は、グループ向けサービスを手がける子会社等から構成されております。

(注3) セグメント損益(事業利益)の「調整額」△21,309百万円には、セグメント間取引消去237百万円、全社費用△21,547百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない新規事業および基礎研究に関する研究開発費および本社機能に係る費用であります。

前第2四半期連結会計期間(自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注2)	調整額 (注3)	連結
	プリンティング ソリューション ズ事業	ビジュアルコミ ュニケーション 事業	ウェアラブル・ 産業プロダクツ 事業	計			
売上収益							
外部収益	176,187	44,919	43,888	264,995	174	1,379	266,549
セグメント間収益	85	39	1,491	1,616	143	△1,759	-
収益合計	176,272	44,959	45,379	266,611	318	△379	266,549
セグメント損益 (事業利益) (注1)	30,439	6,140	2,088	38,668	△64	△11,204	27,399
					その他の営業損益		△3,437
					営業利益		23,962
					金融収益及び金融費用		1,868
					持分法による投資利益		45
					税引前四半期利益		25,876

(注1) セグメント損益(事業利益)は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

(注2) 「その他」の区分は、グループ向けサービスを手がける子会社等から構成されております。

(注3) セグメント損益(事業利益)の「調整額」△11,204百万円には、セグメント間取引消去42百万円、全社費用△11,246百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない新規事業および基礎研究に関する研究開発費および本社機能に係る費用であります。

当第2四半期連結会計期間(自 2015年7月1日 至 2015年9月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注2)	調整額 (注3)	連結
	プリンティング ソリューション ズ事業	ビジュアルコミ ュニケーション 事業	ウェアラブル・ 産業プロダクツ 事業	計			
売上収益							
外部収益	184,688	49,987	45,714	280,390	163	1,513	282,066
セグメント間収益	76	0	1,710	1,788	168	△1,956	-
収益合計	184,765	49,987	47,425	282,178	331	△443	282,066
セグメント損益 (事業利益) (注1)	24,783	4,431	4,914	34,129	△119	△10,279	23,730
					その他の営業損益		1,690
					営業利益		25,421
					金融収益及び金融費用		△1,388
					持分法による投資利益		27
					税引前四半期利益		24,060

(注1) セグメント損益(事業利益)は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

(注2) 「その他」の区分は、グループ向けサービスを手がける子会社等から構成されております。

(注3) セグメント損益(事業利益)の「調整額」△10,279百万円には、セグメント間取引消去117百万円、全社費用△10,397百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない新規事業および基礎研究に関する研究開発費および本社機能に係る費用であります。

(その他の金融負債)

その他の金融負債の内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2015年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2015年9月30日)
デリバティブ負債	259	820
短期借入金	35,380	47,633
1年内返済予定の長期借入金	53	—
1年内償還予定の社債	39,978	29,972
長期借入金	50,533	50,500
社債(注1)(注2)	59,853	29,913
その他	2,153	2,167
合計	188,211	161,006
流動負債	75,745	78,500
非流動負債	112,466	82,506
合計	188,211	161,006

(注1) 社債の発行

前第2四半期連結累計期間において発行された社債は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

会社名	銘柄	発行年月日	発行総額	利率(%)	償還期限
当社	第12回無担保社債(社債間限定同順位特約付)	2014年 6月13日	10,000	0.35	2019年 6月13日

当第2四半期連結累計期間において発行された社債はありません。

(注2) 社債の償還

前第2四半期連結累計期間において償還された社債は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

会社名	銘柄	発行年月日	発行総額	利率(%)	償還期限
当社	第6回無担保社債(社債間限定同順位特約付)	2011年 6月14日	20,000	0.49	2014年 6月13日

当第2四半期連結累計期間において償還された社債は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

会社名	銘柄	発行年月日	発行総額	利率(%)	償還期限
当社	第5回無担保社債(社債間限定同順位特約付)	2010年 9月3日	20,000	0.58	2015年 9月3日
当社	第8回無担保社債(社債間限定同順位特約付)	2012年 9月12日	20,000	0.55	2015年 9月11日

デリバティブ負債は純損益を通じて公正価値で測定する金融負債(ヘッジ会計が適用されているものを除く)、社債および借入金は償却原価で測定する金融負債に分類しております。

社債および借入金に関し、エプソンの財務活動に重大な影響を及ぼす財務制限条項は付されておられません。

(配当金)

配当金の支払額は、以下のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間(自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2014年6月24日 定時株主総会	普通株式	6,618	37	2014年3月31日	2014年6月25日

当第2四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2015年6月25日 定時株主総会	普通株式	14,311	80	2015年3月31日	2015年6月26日

また、基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるものは、以下のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間(自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2014年10月31日 取締役会	普通株式	6,261	35	2014年9月30日	2014年12月5日

当第2四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2015年10月29日 取締役会	普通株式	10,733	30	2015年9月30日	2015年12月4日

(注) 当社は、2015年1月30日開催の取締役会の決議に基づき、2015年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しております。基準日が2015年3月31日以前の「1株当たり配当額」については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

(1株当たり利益)

基本的1株当たり四半期利益の算定上の基礎

(1) 親会社の普通株主に帰属する利益

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
親会社の所有者に帰属する継続事業からの四半期利益	65,838	26,060
親会社の所有者に帰属する非継続事業からの四半期損失	△251	△33
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	65,587	26,027

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日)
親会社の所有者に帰属する継続事業からの四半期利益	19,114	15,504
親会社の所有者に帰属する非継続事業からの四半期損失	△118	△6
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	18,995	15,498

(2) 期中平均普通株式数

(単位：千株)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
期中平均普通株式数	357,780	357,775

(注) 当社は、2015年1月30日開催の取締役会の決議に基づき、2015年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しております。これにともない、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して基本的1株当たり四半期利益を算定しております。

(単位：千株)

	前第2四半期連結会計期間 (自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日)
期中平均普通株式数	357,779	357,775

(注) 当社は、2015年1月30日開催の取締役会の決議に基づき、2015年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しております。これにともない、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して基本的1株当たり四半期利益を算定しております。

(金融商品の公正価値)

(1) 公正価値の算定方法

金融資産および金融負債の公正価値は、以下のとおり算定しております。

(デリバティブ)

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(株式および債券)

市場価格が入手できる場合は、市場価格を用いております。市場価格が入手できない金融商品の公正価値は、入手可能なデータ等を勘案し、類似企業の直近取引価格および将来キャッシュ・フローを割り引く方法等の評価方法により見積っております。

(借入金)

短期借入金は、短期間で決済されるため公正価値は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。長期借入金のうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、公正価値は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。なお、固定金利によるものは、当該長期借入金の元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(社債)

当社の発行する社債の公正価値は、市場価格に基づき算定しております。

(リース債務)

ファイナンス・リースは、一定の期間ごとに区分した債務ごとに、債務額を満期までの期間および信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値により算定しております。

(その他)

上記以外の金融商品は、短期間で決済されるため公正価値は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 金融商品の公正価値

金融商品の帳簿価額と公正価値は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2015年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2015年9月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
公正価値で測定する金融資産				
デリバティブ資産	3,181	3,181	1,656	1,656
株式	19,639	19,639	18,191	18,191
償却原価で測定する金融資産				
現金及び現金同等物	245,330	245,330	190,596	190,596
売上債権及びその他の債権	167,482	167,482	167,243	167,243
債券	108	108	110	110
その他	5,960	5,960	6,104	6,104
公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債	259	259	820	820
償却原価で測定する金融負債				
仕入債務及びその他の債務	140,047	140,047	134,020	134,020
有利子負債				
借入金	85,966	86,118	98,133	98,259
社債	99,831	100,466	59,885	60,343
リース債務	180	180	269	269
その他	1,973	1,973	1,897	1,897

(3) 公正価値ヒエラルキー

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、レベル1からレベル3までを以下のように分類しております。

レベル1： 活発な市場における公表価格により測定された公正価値

レベル2： レベル1以外の、観察可能な価格を直接または間接的に使用して算出された公正価値

レベル3： 観察可能な市場データに基づかないインプットを含む、評価技法から算出された公正価値

エプソンにおいては、上記レベルを更にクラスに細分化して表示する必要があるような測定の不確実性と主観性の程度が大きい金融商品はありません。

エプソンは、公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替を、前連結会計年度および当第2四半期連結会計期間の末日に発生したものとして認識しております。

公正価値で測定する金融資産および金融負債に関するヒエラルキー別分類

前連結会計年度 (2015年3月31日)

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産				
デリバティブ資産	—	3,181	—	3,181
株式	17,232	—	2,406	19,639
合計	17,232	3,181	2,406	22,821
金融負債				
デリバティブ負債	—	259	—	259
合計	—	259	—	259

当第2四半期連結会計期間 (2015年9月30日)

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産				
デリバティブ資産	—	1,656	—	1,656
株式	16,150	—	2,040	18,191
合計	16,150	1,656	2,040	19,847
金融負債				
デリバティブ負債	—	820	—	820
合計	—	820	—	820

前連結会計年度および当第2四半期連結会計期間において、レベル1とレベル2の間の振替が行われた金融商品はありません。

レベル3に分類された金融商品の増減は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
期首残高	2,606	2,406
利得および損失		
その他の包括利益	△8	△336
売却	△25	△30
期末残高	2,573	2,040

(偶発事象)

重要な訴訟

訴訟については、一般的に不確実性を含んでおり、経済的便益の流出可能性についての信頼に足る判断や財務上の影響額の見積りは困難です。経済的便益の流出可能性が高くない、または財務上の影響額の見積りが不可能な場合には引当金は計上しておりません。なお、エプソンに係争している重要な訴訟は、以下のとおりであります。

(1) 液晶ディスプレイの価格カルテル嫌疑

当社および関係する連結子会社は、液晶ディスプレイの価格カルテル嫌疑に基づき、米国の取引先などから民事訴訟を提起されております。

また、欧州委員会そのほかの競争法関係当局による調査を受けております。

(2) インクジェットプリンターの著作権料に関する民事訴訟

当社の連結子会社であるEpson Europe B.V. (以下「EEB」という。)は、2010年6月にベルギーにおける著作権料徴収団体であるLa SCRL REPROBELに対して、マルチファンクションプリンターに関する著作権料の返還などを求める民事訴訟を提起しました。その後、La SCRL REPROBELがEEBを提訴したことにより、これら二つの訴訟は併合され、かかる訴訟の第1審ではEEBの主張を棄却する判決がなされましたが、EEBは、これを不服として上訴する方針です。

また、当社の連結子会社であるEpson Deutschland GmbH (以下「EDG」という。)は、2004年1月にドイツにおける著作権料徴収団体であるVerwertungsgesellschaft Wortより、シングルファンクションプリンターの著作権料の支払いを求める民事訴訟を提起されました。EDGは訴訟手続きを進める一方、ドイツIT関連業界団体BITKOM (Bundesverband Informationswirtschaft, Telekommunikation und neue Medien e.V.)を通じて和解による解決に向けた協議を進めた結果、このたび合意に至りました。これにともない、本訴訟は取下げられ終結いたしました。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(親会社の所有者に帰属する持分の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(後発事象)

資産の譲渡

(1) 譲渡の理由

当社は、「SE15後期 新中期経営計画」に基づき、将来の事業成長の実現に向けて、事業構造の転換を進めております。これらの取り組みに加え、経営資源の効率化および財務体質の更なる強化を目的とした施策の一つとして、以下の資産の譲渡について決議しております。

(2) 譲渡資産の内容

- | | |
|---------|---------------------|
| ① 資産の内容 | 土地 (98,310.93㎡) |
| ② 所在地 | 神奈川県高座郡寒川町小谷二丁目1番1号 |
| ③ 現況 | 遊休資産 |

なお、帳簿価額および譲渡価額につきましては、契約上の都合により開示しておりません。

(3) 譲渡先の概要

譲渡先は国内の一般事業法人ですが、契約上の都合により開示しておりません。

なお、譲渡先と当社との間には、記載すべき資本関係、人的関係および取引関係はなく、また当社の関連当事者には該当しておりません。

(4) 譲渡の日程

当社取締役会決議日	2015年10月29日
譲渡契約締結日	2015年10月30日 (予定)
物件引渡期日	2015年12月末 (予定)

(5) 業績への影響

第3四半期連結会計期間に固定資産売却益7,700百万円(概算)を「その他の営業収益」として計上する見込みであります。

なお、当該資産について、当第2四半期連結会計期間に3,828百万円の減損損失の戻入れを「その他の営業収益」に計上しております。

(参考) 要約四半期推移連結包括利益計算書

(単位: 百万円)

	第1四半期連結会計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	第2四半期連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日)
売上収益	260,914	282,066
売上原価	△171,463	△179,773
売上総利益	89,451	102,293
販売費及び一般管理費	△72,937	△78,562
その他の営業収益	1,305	4,314
その他の営業費用	△1,530	△2,624
営業利益	16,288	25,421
金融収益	534	358
金融費用	△840	△1,746
持分法による投資利益	63	27
税引前四半期利益	16,045	24,060
法人所得税費用	△5,461	△8,445
継続事業からの四半期利益	10,584	15,614
非継続事業からの四半期損失	△27	△6
四半期利益	10,557	15,608
税引後その他の包括利益合計	9,316	△19,177
四半期包括利益合計	19,874	△3,568

2016年3月期 第2四半期
決算短信 補足説明資料

(注意事項)

本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きくかけ離れた結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および諸外国の経済情勢、市場における新製品・新サービスの開発・提供と需要動向、価格競争、他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

1. 事業別売上収益

(単位：億円)

期 別 項 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減率	当連結会計年度 (予想)	対前年 増減率
	自 2014年4月1日 至 2014年9月30日	自 2015年4月1日 至 2015年9月30日		自 2015年4月1日 至 2016年3月31日	
	金 額	金 額		金 額	
			%		%
プリンティングソリューションズ事業	3,360	3,566	6.1	7,420	1.5
プリンター事業	2,299	2,494	8.5	5,250	2.7
プロフェッショナルプリンティング事業	949	1,004	5.8	2,000	0.4
そ の 他	120	78	△ 35.1	200	△ 11.3
事業間売上収益	△ 9	△ 11	—	△ 30	—
ビジュアルコミュニケーション事業	868	951	9.5	1,800	1.6
ウェアラブル・産業プロダクツ事業	898	914	1.8	1,760	1.5
ウェアラブル機器事業	290	321	10.8	630	10.4
ロボティクスソリューションズ事業	99	84	△ 15.2	160	2.5
マイクロデバイス他	544	545	0.2	1,040	△ 3.6
事業間売上収益	△ 35	△ 37	—	△ 70	—
そ の 他	6	6	0.7	10	△ 28.1
全社費用・調整額	△ 5	△ 9	—	10	△ 70.7
連 結	5,128	5,429	5.9	11,000	1.3

- (注) 1. 当連結会計年度よりセグメントの構成を変更したため、前連結会計年度の金額は当連結会計年度よりのセグメント情報の測定方法で再計算して表示しております。
 2. 「その他」の区分は、グループ向けサービスを手がける子会社等から構成されております。

2. 事業の種類別セグメント情報

(単位：億円)

期 別 科目	前第2四半期 連結累計期間 自 2014年4月1日 至 2014年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 自 2015年4月1日 至 2015年9月30日	増減率	当連結会計年度 (予想) 自 2015年4月1日 至 2016年3月31日	対前年 増減率
	金 額	金 額		金 額	
			%		%
プリンティングソリューションズ事業					
外部顧客に対する売上収益	3,358	3,564	6.1	7,420	1.6
セグメント間売上収益	1	1	△ 4.0	0	—
売上収益計	3,360	3,566	6.1	7,420	1.5
セグメント利益	552	440	△ 20.3	990	△ 11.2
ビジュアルコミュニケーション事業					
外部顧客に対する売上収益	867	951	9.6	1,800	1.7
セグメント間売上収益	0	0	△ 61.1	0	—
売上収益計	868	951	9.5	1,800	1.6
セグメント利益	107	88	△ 17.5	160	△ 17.6
ウェアラブル・産業プロダクツ事業					
外部顧客に対する売上収益	869	881	1.4	1,700	1.4
セグメント間売上収益	28	32	15.4	60	1.9
売上収益計	898	914	1.8	1,760	1.5
セグメント利益	58	89	52.8	120	16.1
その他の					
外部顧客に対する売上収益	3	2	△ 11.1	0	—
セグメント間売上収益	2	3	14.1	10	71.9
売上収益計	6	6	0.7	10	△ 28.1
セグメント利益	△ 1	△ 3	—	△ 10	—
全社費用・調整額					
外部顧客に対する売上収益	28	28	3.1	80	△ 23.6
セグメント間売上収益	△ 34	△ 38	—	△ 70	—
売上収益計	△ 5	△ 9	—	10	△ 70.7
セグメント利益	△ 207	△ 213	—	△ 440	—
連 結					
売上収益	5,128	5,429	5.9	11,000	1.3
事業利益	509	402	△ 20.9	820	△ 19.0

- (注) 1. 当連結会計年度よりセグメントの構成を変更したため、前連結会計年度の金額は当連結会計年度よりのセグメント情報の測定方法で再計算して表示しております。
 2. 「その他」の区分は、グループ向けサービスを手がける子会社等から構成されております。

3. 海外売上収益

(単位：億円)

期 別 科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増 減	対前年 増減率
	自 2014年4月1日 至 2014年9月30日	自 2015年4月1日 至 2015年9月30日	金 額	
	金 額	金 額	金 額	%
海 外 売 上 収 益				
米 州	1,402	1,659	256	18.3
欧 州	1,105	1,067	△ 38	△ 3.5
ア ジ ア ・ オ セ ア ニ ア	1,337	1,509	171	12.8
計	3,846	4,236	389	10.1
連 結 売 上 収 益	5,128	5,429	301	5.9
連結売上収益に占める 海外売上収益の割合(%)				
米 州	27.4	30.6		
欧 州	21.6	19.7		
ア ジ ア ・ オ セ ア ニ ア	26.1	27.8		
計	75.0	78.0		

- (注) 1. 海外売上収益は顧客の所在地を基礎とし、地域に分類しております。地域の区分方法は地理的近接度に基づく区分方法によっており、各地域区分に属する主要国名等は次のとおりであります。
2. 商社等の仲介者を通じての輸出は海外売上収益には含めておりません。

地域区分	主要国名等
米 州	アメリカ合衆国、カナダ、ブラジル、チリ、アルゼンチン、コスタリカ、コロンビア、ヴェネズエラ、メキシコ、ペルー 等
欧 州	イギリス、オランダ、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、ロシア 等
ア ジ ア ・ オ セ ア ニ ア	中華人民共和国（香港を含む）、シンガポール、マレーシア、台湾、タイ、フィリピン、オーストラリア、ニュージーランド、インドネシア、韓国、インド 等

4. 設備投資・減価償却費

(単位：億円)

期 別 項 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減率	当連結会計年度 (予想)	対前年 増減率
	自 2014年4月1日 至 2014年9月30日	自 2015年4月1日 至 2015年9月30日		自 2015年4月1日 至 2016年3月31日	
	金 額	金 額		金 額	%
設 備 投 資	196	314	60.1	700	54.1
プリンティングソリューションズ事業	108	186	72.3	390	75.8
ビジュアルコミュニケーション事業	31	32	4.1	100	45.4
ウェアラブル・産業プロダクツ事業	28	40	40.9	90	7.6
そ の 他 ・ 全 社 費 用	28	55	94.5	120	50.0
減 価 償 却 費	216	232	7.2	470	5.7

- (注) 1. 当連結会計年度よりセグメントの構成を変更したため、前連結会計年度の金額は当連結会計年度よりのセグメント情報の測定方法で再計算して表示しております。
2. 「その他」の区分は、グループ向けサービスを手がける子会社等から構成されております。

5. 研究開発費

(単位：億円)

期 別 項 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減率	当連結会計年度 (予想)	対前年 増減率
	自 2014年4月1日 至 2014年9月30日	自 2015年4月1日 至 2015年9月30日		自 2015年4月1日 至 2016年3月31日	
	金 額	金 額		金 額	
			%		%
研 究 開 発 費	229	259	13.1	550	15.0
売 上 収 益 比 率	4.5%	4.8%		5.0%	

6. 経営指標

(単位：%)

期 別 項 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	差 異	当連結会計年度 (予想)	対前年 差 異
	自 2014年4月1日 至 2014年9月30日	自 2015年4月1日 至 2015年9月30日		自 2015年4月1日 至 2016年3月31日	
	比 率	比 率		比 率	
			ポ イ ント		ポ イ ント
親会社所有者帰属持分当期利益率	16.3	5.3	△ 11.0	11.8	△ 14.5
資 産 合 計 事 業 利 益 率	5.4	4.1	△ 1.3	8.2	△ 2.4
資 産 合 計 営 業 利 益 率	8.4	4.2	△ 4.2	9.1	△ 4.6
売 上 収 益 事 業 利 益 率	9.9	7.4	△ 2.5	7.5	△ 1.8
売 上 収 益 営 業 利 益 率	15.3	7.7	△ 7.6	8.3	△ 3.8

- (注) 1. 親会社所有者帰属持分当期利益率=親会社の所有者に帰属する当期利益/期首・期末親会社の所有者に帰属する持分平均
 2. 資産合計事業利益率=事業利益/期首・期末資産合計平均
 3. 資産合計営業利益率=営業利益/期首・期末資産合計平均
 4. 売上収益事業利益率=事業利益/売上収益
 5. 売上収益営業利益率=営業利益/売上収益

7. 棚卸資産

(単位：億円)

期 別 項 目	前第2四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末	当第2四半期 連結会計期間末	対前連結会計 年度末増減
	(2014年9月30日)	(2015年3月31日)	(2015年9月30日)	
	金 額	金 額	金 額	
棚卸資産	2,164	2,204	2,342	138
プリンティングソリューションズ事業	1,248	1,216	1,330	113
ビジュアルコミュニケーション事業	484	534	559	24
ウェアラブル・産業プロダクツ事業	420	445	443	△ 1
そ の 他 ・ 全 社 費 用	9	6	9	2
(単位：日)				
回転日数	77	74	79	5
プリンティングソリューションズ事業	68	61	68	7
ビジュアルコミュニケーション事業	102	110	107	△ 3
ウェアラブル・産業プロダクツ事業	86	94	89	△ 5
そ の 他 ・ 全 社 費 用	53	21	47	26

- (注) 1. 回転日数=第2四半期連結会計期間末(期末)棚卸資産残高/第2四半期連結会計期間末直前6ヶ月間(期末直前12ヶ月間)の1日当たり売上収益
 2. 「その他」の区分は、グループ向けサービスを手がける子会社等から構成されております。

8. 従業員数

(単位：人)

項目 \ 期別	前第2四半期 連結会計期間末 (2014年9月30日)	前連結会計年度末 (2015年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (2015年9月30日)	対前連結会計 年度末増減
期末従業員数	72,021	69,878	71,777	1,899
国内	18,314	18,627	18,804	177
海外	53,707	51,251	52,973	1,722